

滿洲事變、五一五事件を契機として日本の社會情勢は一大變化を來し吾々の兄弟であつた労働者が己れの陣營を放棄して資本家の傀儡たる反動「フアツシヨ」へ轉落するに至つた、斯る旋風の眞只中に在りて日本労働組合會議が盟團體の同志のみは確實に自己の立場を認識し陣營の整備擴大に努めて來た、諸君は重慶の賦飛して目的の彼岸に邁進せよ。

○ 總同盟中四聯合會長

金 幸 平

日本の労働運動は何れも侵略を辿つて來た、吾々の因島造船所では大正十三年頃三千の労働者による組合結成の氣運が醸成され一ヶ年の後には百數十名の同志が出來たのであるが、此間會社側の壓迫は實に言語に絶した斯る重慶は却つて労働者の反抗心を誘發し翌年のメーデーには千の同志を動員して會社側を壓然たらしめた其の間組合幹部は次々に賦首され大正

十五年六月には組合員四百五十名の大量解雇を斷行したが最後迄組合の旗の下に團結し生活擁護に努めた結果遂に會社側に組合を容認せしめた、斯の如く從來に於ては資本家、官憲方面にて組合主義運動を危險視せられて居たのであるが今日斯る誤れる觀念は一掃せられ國家産業の爲の團體として考へられて來た、其の證據は昨日の製網小倉労働會館開館式に於ける知事閣下の祝辭を見ても明瞭である。吾々には自己の責任を自覺し國家産業發展の爲邁進せよ。

○ 製網労働組合兵庫支部 幹事長

蓬 來 長 治

我製網労働組合兵庫支部は大正十五年結成したのであるが當時日本の労働運動は最も混亂した時代であつて、此の中に敢然奮起して同志の結合を完成する事が出來た、何故容易に團結が出來たかそれは吾々の運動が現實に即して居たからだ、